

令和元年度
「第2期上田市教育支援プラン」
(計画期間：平成28年度～令和2年度)
進捗状況報告書

令和2年5月
上田市
上田市教育委員会

1 趣旨

「第2期上田市教育支援プラン」では、計画期間の最終年度となる平成32年度の目標として設定した測定指標を、14の支援策に40項目掲げています。

上田市教育大綱が示す「燦と輝く上田の未来を紡ぐ人づくり」に込められた思いを受け、将来の主演となる今の子どもたちが、確かな学力を養い、グローバルな能力を培い、ふるさと上田に学べるよう、掲げた目標に対する当該年度の実績を数値化し、掲げた支援策への取組の成果・課題を検証することで、効果的な教育行政を推進していきます。

2 確認方法

それぞれの支援策に掲げた測定指標に対する当該年度の実績値を示し、市長と教育委員による総合教育会議で意見をいただき確認します。

3 令和元年度 進捗状況確認対象項目

(第2期上田市教育支援プランの支援策の測定指標に掲げた項目)

○支援策1 学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善及び学校評価を通じ、わかる授業、楽しい授業を推進

全国学力・学習状況調査平均正答率
「授業がわかる」と回答する児童生徒の割合

○支援策2 ICTを活用した効果的な授業の推進

教員のICT活用指導力
コンピューター等情報通信機器を活用し授業を行ったと答える学校の割合
デジタル教科書などICT機器を活用した授業(算数、数学)の実施状況

○支援策3 学習習慣を身に付ける家庭学習の充実

一日当たり、30分以上読書をする児童生徒の割合
家庭学習時間数

○支援策4 英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実

上田市英語教育推進計画(仮称)の策定
英語コミュニケーション能力水準

○支援策 5 幼保小中高大の連携推進

「学校に行くのは楽しい」と回答する児童生徒の割合
市内4年制大学等高等教育機関との連携事業実施校数
市内4年制大学等高等教育機関が提供する出前講座数

○支援策 6 キャリア教育の推進

「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒の割合
キャリア教育出前講座登録事業所数

○支援策 7 豊かな心を育てる教育の推進

一日1時間以上、携帯電話やスマートフォンを使用する児童生徒の割合
「人の気持ちがわかる人間になりたい」と答える児童生徒の割合
「人の役に立つ人間になりたい」と答える児童生徒の割合
「家の人と学校での出来事について話をしている」と答える児童生徒の割合

○支援策 8 食育の推進

毎日朝食を食べる児童生徒の割合
栄養教諭・栄養士が関わった食に関する授業回数
給食での地元産食材使用割合

○支援策 9 体力づくりの推進

全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点
「運動することが好き」と回答する児童生徒の割合
「夢の教室」等の実施回数
「(仮称)体力づくりチャレンジカード」作成

○支援策 10 いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援

いじめ認知件数に対する解消率
「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と答える児童生徒の割合
小中学校における不登校児童生徒の在籍率

○支援策 1 1 特別な支援を要する児童生徒への支援

保護者と学校が共同して作成した「個別の指導計画」作成率
「個別の教育支援計画」作成率
特別支援学級へのタブレット型端末導入校数
発達障がいに関する研修会参加教職員数

○支援策 1 2 地域による学校支援の仕組みづくりの推進

信州型コミュニティスクール等の要件を満たす学校数
学校と地域を結ぶ、地域の人材を活用したコーディネーターの配置数
学校ボランティアバンク登録者数

○支援策 1 3 地域を学び、地域に対する愛着を深める教育の推進

「地域の行事に参加している」と答える児童生徒の割合
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」と答える児童生徒の割合
「(仮題)ふるさと上田人物伝」を活用した授業の取組校数

○支援策 1 4 自然を守り、災害や犯罪から自らを守る教育の推進

(仮称) こどもエコ推進員活動取組校数
消防団と連携した防災行事を行う小学校数

進捗状況調書

基本施策	1 学力の定着・向上
支援策	1 学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善及び学校評価を通じ、わかる授業、楽しい授業を推進

●支援策の概要

成果目標	児童生徒が基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用する力、探究心、人間関係形成能力等を身に付けられるようにします。
主な施策の展開	①基礎学力の定着 ②思考力、判断力、表現力等の育成（政策企画部連携事業） ③学力検査・調査を活用した実態把握と授業改善 ④小中が連携した授業の推進 ⑤「学校提案型特色ある学校づくり交付金」を活用した支援 ⑥学力向上委員会による授業改善 ⑦経済的に困窮している世帯の児童生徒への支援（福祉部連携事業）

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
		①	小学校 国語A ▲0.1 国語B ▲0.4 算数A ▲1.4 算数B ▲0.6 ※単位:ポイント 中学校 国語A ▲0.5 国語B ▲1.9 数学A ▲2.0 数学B ▲2.4 ※単位:ポイント	実施全科目において全国平均を上回る。	小学校 国語A 0.1 国語B 0.4 算数A 0.6 算数B ▲1.0 ※単位:ポイント 中学校 国語A 0.3 国語B ▲1.1 数学A ▲2.6 数学B ▲2.3 ※単位:ポイント	小学校 国語A ▲0.5 国語B ▲1.2 算数A ▲1.5 算数B ▲2.1 ※単位:ポイント 中学校 国語A 1.0 国語B ▲1.1 数学A ▲0.5 数学B ▲1.3 ※単位:ポイント	小学校 国語A 0.1 国語B ▲1.2 算数A ▲2.0 算数B ▲2.2 理科 ▲0.8 ※単位:ポイント 中学校 国語A ▲0.9 国語B ▲1.4 数学A ▲3.1 数学B ▲3.0 理科 ▲1.6 ※単位:ポイント
②	「授業がわかる」と回答する児童生徒(小6、中3)の割合(全国学力・学習状況調査)	小学校 80.4% 中学校 72.9%	小学校 83.0% 中学校 75.0%	小学校 78.4% 中学校 75.1%	小学校 77.5% 中学校 74.7%	小学校 82.4% 中学校 71.3%	小学校 83.1% 中学校 74.0%

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

○全小中学校が全国学力・学習状況調査、市独自に実施する標準学力検査に参加し、その結果を分析して授業改善に取り組みました。 ※令和元年度から、国語、算数・数学の基礎Aと応用Bの問題が統一され、初めて英語が実施されました。 ※市実施調査(小5:国・算、小6:国・算、中1:国・数、中2:国・数・社・理・英、中3:国・数) ○「学校提案型特色ある学校づくり交付金」を全小中学校で活用し、教職員研修や授業研究に取り組みました。 ○学力向上委員会を開催し、学力向上に向けた取組を推進しました。 ※会議開催数4回(うち公開授業(真田中学校)1回実施) ○学力向上委員会の活動を発展的に見直し、授業改善を図るため、ベテラン教員を交えた「授業を語る会」を3回実施しました。 ○交流文化芸術センターを活用した、小学校連合音楽会、心の劇場を通じ、児童の鑑賞力、表現力の育成を図りました。 ○福祉部が実施する「上田市生活困窮者学習支援事業」への協力、同部が中心に開催する「生活困窮者自立支援事業庁内連携会議」に参加し、経済的に困窮している世帯の児童生徒に対する学習支援を図りました。
--

2 課題と今後の取組方針

○全国学力・学習状況調査における平均正答率は、全ての教科で全国値を下回り、学力向上と定着に課題が残されました。学校においては、各種学力検査の結果分析を通じた授業改善に引き続き取り組み、学力向上を図ります。 ○学力向上委員会では、自校の取組を自由討論し、学力向上・授業改善につなげる「授業を語る会」の取組を引き続き実施してまいります。 ○県の新規事業「学びの改革実践校応援事業」に市内小中1校ずつが選定され、授業改革を推進していきます。 ○特色ある学校づくり交付金事業や学びの改革実践校応援事業等、各校の学力向上やキャリア教育の取組が充実するよう支援してまいります。

進捗状況調書

基本施策	1 学力の定着・向上
支援策	2 ICTを活用した効果的な授業の推進

●支援策の概要

成果目標	教員のICT活用指導力を養成し、よりわかりやすい授業を実現します。
主な施策の展開	① ICTの活用等による確かな学力の育成

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
		①	教員のICT活用指導力 (教員のICT活用指導力等の実態調査)	小学校 78.4% 中学校 79.0%	小学校 90.0% 中学校 90.0%	小学校 81.6% 中学校 84.1%	小学校 83.8% 中学校 84.3%
②	コンピューター等情報通信機器を活用し授業を行ったと答える学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 48.0% 中学校 27.3%	小学校 100.0% 中学校 100.0%	小学校 60.0% 中学校 18.2%	小学校 60.0% 中学校 36.4%	平成30年度における調査なし	令和元年度における調査なし
③	デジタル教科書などICT機器を活用した授業(算数、数学)の実施状況 (全国学力・学習状況調査)	小学校 4.0% 中学校 27.3%	小学校 100.0% 中学校 100.0%	小学校 32.0% 中学校 36.4%	小学校 44.0% 中学校 27.3%	平成30年度における調査なし	令和元年度における調査なし

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<ul style="list-style-type: none"> ○整備した情報機器の使用頻度を高めるため、情報教育担当指導主事、ICT支援員の学校訪問、情報教育研修会の開催を通じ、教員のICT活用指導力を高めました。 ○小中学校の普通教室に教材提示装置の配備をすすめました。 ○児童生徒にパソコン教室以外でも端末が操作できる環境の構築に着手しました。 ○大型モニター、実物投影機、デジタル教科書等の活用促進に努めました。

2 課題と今後の取組方針

<ul style="list-style-type: none"> ○ICT活用した授業により、児童生徒にとってわかりやすい授業を目指します。 ○学校、教師によるICT実践に差が生じているため、利活用実践を紹介したり、講習会の開催を増やします。 ○整備されている機器及びソフトウェアの稼働率を上げるため、教師間の情報共有の機会や研修会を増やします。 ○教師の校務用PCの機器の更新やアップグレードを進めていきます。 ○GIGAスクール構想について研究検討し、児童生徒に1人1台端末の整備を進めます。

進捗状況調書

基本施策	1 学力の定着・向上
支援策	3 学習習慣を身に付ける家庭学習の充実

●支援策の概要

成果目標	学ぶ意欲や目的意識を持った児童生徒を育てます。
主な施策の展開	① 学習習慣形成の推進 ② 読書活動の充実

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
進 捗 状 況	① 一日当たり、30分以上読書をする児童生徒の割合 (小6、中3) (全国学力・学習状況調査)	小学校 41.3% 中学校 32.4%	小学校 60.0% 中学校 50.0%	小学校 40.3% 中学校 28.1%	小学校 37.4% 中学校 33.8%	小学校 47.7% 中学校 31.9%	小学校 43.7% 中学校 28.7%
	② 家庭学習時間数 (小6、中3) (全国学力・学習状況調査)						
	・ 平日2時間以上家庭学習 (塾等の時間含む)を行う割合	小学校 19.1% 中学校 29.4%	小学校 25.0% 中学校 35.0%	小学校 22.5% 中学校 27.0%	小学校 24.1% 中学校 30.5%	小学校 26.4% 中学校 27.0%	小学校 23.0% 中学校 30.8%
	・ 休日3時間以上家庭学習 (塾等の時間含む)を行う割合	小学校 7.8% 中学校 17.3%	小学校 10.0% 中学校 20.0%	小学校 8.3% 中学校 16.5%	小学校 9.1% 中学校 18.5%	平成30年度における調査なし	令和元年度における調査なし
	・ 計画を立て家庭学習を行う割合	小学校 65.1% 中学校 47.2%	小学校 70.0% 中学校 60.0%	小学校 60.4% 中学校 44.8%	小学校 64.3% 中学校 52.7%	小学校 68.6% 中学校 49.5%	小学校 76.4% 中学校 48.8%
・ 予習など授業につながる内容に取り組む割合	小学校 38.7% 中学校 22.2%	小学校 45.0% 中学校 40.0%	小学校 36.0% 中学校 22.3%	小学校 33.3% 中学校 22.4%	平成30年度における調査なし	令和元年度における調査なし	

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○家庭における学習習慣形成を目指し、家庭学習を充実させる目的で作成した、生活・学習ノート「紡ぐ」を市内全小中学校で活用しました。教育委員会では抽出校(小学校12校・中学校6校)を対象とした調査を年2回、また学力向上委員会小委員会では活用状況の検証、ノート仕様の修正を行い、令和2年度に向けた準備を行いました。</p> <p>○一日あたり30分以上読書をする割合は、小中ともに全国を上回りました。 (小学校43.7%:全国39.8%(+3.9%)、県41.8%(+1.9%) 中学校28.7%:全国27.0%(+1.7%)、県31.4%(△2.7%)</p> <p>○平日2時間以上家庭学習を行う割合は、小中ともに全国を下回りました。 (小学校23.0%:全国29.3%(△6.3%)、県24.8%(△1.8%) 中学校30.8%:全国35.5%(△4.7%)、県29.8%(+1.0%)</p> <p>○計画を立て家庭学習を行う割合は、小学校では前年度と比較し7.8%増加し、中学校では0.7%減少しました。 また、全国、県との比較では、小学校で上回った一方、中学校では下回りました。 (小学校76.4%:全国71.5%(+4.9%)、県73.0%(+3.4%) 中学校48.8%:全国50.4%(△1.6%)、県50.0%(△1.2%)</p> <p>○生活・学習ノート「紡ぐ」の有効活用が各校に広がるよう、効果的に使用している小中学校の実践報告を、市校長会及び学力向上委員会で行いました。</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>○読書の重要性は認識されており、各小中学校でも読書に親しむ機会を図っています。読み聞かせなど、学校支援ボランティアとの連携を通じて、読書活動が充実するよう努めます。</p> <p>○令和2年度も継続して生活・学習ノート「紡ぐ」を全小中学校で活用します。活用状況を教育委員会、学力向上委員会で把握、分析することで、さらに効果的な活用を図ります。</p> <p>○小中学校では、当該校の学力向上委員会を中心に、「紡ぐ」の有効活用について研究を進めます。</p> <p>○平日2時間以上の家庭学習を行う割合は、平成27年度と比較すると小学校は3.9%、中学校は1.4%の増。 計画を立て家庭学習を行う割合は、平成27年度と比較すると小学校は11.3%、中学校は1.6%の増。 「紡ぐ」の活用や具体的な学習指導の取組が反映されてきていると考えられます。</p>

進捗状況調書

基本施策	2 未来を切り拓く力の育成
支援策	4 英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実

●支援策の概要

成果目標	小学校英語教科化に向けた取組を推進するとともに、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。
主な施策の展開	① 小学校英語教科化に向けた準備 ② 英語によるコミュニケーション能力の充実、向上（政策企画部連携事業）

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
進捗状況	① 上田市英語教育推進計画 (仮称)の策定 (学校教育課)	未策定	平成28年度に策定 学習指導要領改訂時に見直し	策定中	小学校英語教科化先行実施に向けた準備を行う。	小学校英語教科化に向けた先行実施	小学校英語教科化に向けた先行実施
	② 英語コミュニケーション能力水準(中3) (英語教育実施状況調査)						
	・ 英語検定3級以上取得者 ※H30からCEFR A1相当取得	19.8%	30.0%	20.4%	24.4%	24.1%	24.8%
	・ 英語検定3級レベル者 ※H30からCEFR A1相当レベル	33.1%	50.0%	41.2%	37.5%	39.4%	46.3%

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○2020年度からの小学校外国語教育導入に備え、2年間前倒した先行実施を行いました。</p> <p>○高度化する授業に対応するため、小学校専属の外国語指導助手(ALT)6名を配置し、全小学校を定期的に巡回しました。</p> <p>○英語教育担当指導主事が小学校向け指導案を作成するとともに、全小学校を巡回し授業支援を行いました。</p> <p>○小学校教員の指導力向上に向けた研修会の実施(年4回)に取り組みました。</p> <p>○ALT会議を定期的に開催し、ALTの授業力向上を図りました。</p> <p>○英会話の楽しさを学べるよう、ALTと小学生が触れ合う「きっず・イングリッシュディ」を上野が丘公民館で開催しました。</p> <p>○楽しみながら英語に親しめるよう、平成29年度に全小学校に整備したデジタル教材「モジュール105」を引き続き活用しました。</p> <p>○教員の英語力等の不安軽減、学校間の差の解消に努めました。</p>
--

2 課題と今後の取組方針

<p>○引き続き、小学校教員の指導力向上を図る必要があり、各種研修会、公開授業の開催、日常的な授業支援に取り組む必要があります。</p> <p>○ALTの指導力を高めるとともに、人員体制を強化しながら各校への配置の均衡を図ります。また、児童や教職員が日常的にALTと触れ合う機会を創出することで、英語に親しむ機会を多くします。</p> <p>○小学生が英語に親しみ、気軽にコミュニケーションが取れるよう、授業時間以外にも英語に触れる機会の創出が必要と考えます。公民館とも連携し、土曜日を活用した教育活動の実施について研究していきます。</p>

進捗状況調書

基本施策	2 未来を切り拓く力の育成
支援策	5 幼保小中高大の連携推進

●支援策の概要

成果目標	関係機関と連携し、児童生徒の学習意欲や探究心の向上を図ります。
主な施策の展開	① 幼保小中による連携事業の推進（健康こども未来部連携事業） ② 小中・中高・高大の連続性のある指導（政策企画部連携事業） ③ 4年制大学など高等教育機関との連携（政策企画部連携事業）

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
進 捗 状 況	① 「学校に行くのは楽しい」と回答する児童生徒の割合 (学校経営概要)	小学校 92.0% 中学校 88.3%	小学校 94.0% 中学校 90.0%	小学校 92.2% 中学校 88.2%	小学校 92.9% 中学校 88.1%	小学校 91.4% 中学校 86.1%	小学校 90.7% 中学校 85.2%
	② 市内4年制大学等高等教育機関との連携事業実施校数 (学校教育課)	小学校 10校 中学校 5校	全小中学校で実施	小学校 15校 中学校 5校	小学校 18校 中学校 7校	小学校 12校 中学校 8校	小学校 17校 中学校 7校
	③ 市内4年制大学等高等教育機関が提供する出前講座数 (学校教育課)	未策定	30	策定中	7	7	8

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○中学校区を基本とした教職員の保育・授業参観、連絡会等の定期開催と報告書「幼保小中の連携状況について」の作成、また子ども同士の交流を行うことで、子どもの連続した発達と学習を支援できるよう連携を図りました。</p> <p>○児童生徒が互いを認め合える学級づくりや、わかる授業を目指した授業改善に全小中学校が取り組みました。</p> <p>○信州大学、長野大学、上田女子短期大学、上田高校、丸子修学館高校、上田西高校、さくら国際高校との連携した取組が進みました。</p>
--

2 課題と今後の取組方針

<p>○児童生徒理解や学力向上、生徒指導、特別支援教育等、それぞれの分野で幼保小中間の連携事業が実施されており、引き続き組織的に実施することで、校種間の接続期に生じる子どもたちの課題の解消に努めるとともに、切れ目ない支援を行っていきます。</p> <p>○市内高等教育機関との連携する小中学校が増加しました。これら高等教育機関との連携や「まちなかキャンパスうえだ」が主催する講座への参加を通じて、児童生徒の学ぶ意欲や探究心の向上につなげていきます。</p>
--

進捗状況調書

基本施策	2 未来を切り拓く力の育成
支援策	6 キャリア教育の推進

●支援策の概要

成果目標	地元産業への興味関心を高めるとともに、職業の世界を知り、将来就きたい仕事をイメージできる力を育みます。
主な施策の展開	① 学校におけるキャリア教育の実施（商工観光部連携事業） ② 実社会とつながる体験機会、発表の場等の充実（商工観光部連携事業）

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
①	「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒（小6、中3）の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 85.7% 中学校 70.3%	小学校 90.0% 中学校 75.0%	小学校 86.5% 中学校 72.2%	小学校 86.6% 中学校 70.6%	小学校 84.4% 中学校 72.4%	小学校 82.9% 中学校 69.5%
②	キャリア教育出前講座登録事業所数 (学校教育課)	0(未策定)	30	24	35	35	35

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○商工観光部と連携し、企業に対するキャリア教育実施の意向調査を行いました。</p> <p>○全校が、キャリア教育の全体計画及び年間指導計画に基づき、保護者や地元企業などの協力を得て、発達段階に応じて地域の職業調べや、ものづくりなどの体験活動を実施しました。</p> <p>○夏休み親子会社・大学見学会(9つの企業及び大学)に197人の児童生徒が参加し、科学やものづくりへの興味・関心を高めました。</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>○商工観光部と連携して、中学生職場体験の受け入れ企業を新規開拓することで、地元産業や企業への関心を高めるとともに、生徒の職業観を広げていきます。</p> <p>○キャリア教育出前講座が小中学校で広がるよう、学校に対する周知を進めていきます。</p> <p>○社会的、職業的自立に向け、引き続きキャリア教育を行い、自分自身の良さや特性を振り返り自己肯定感に繋がる指導・支援を行ってまいります。</p>
--

進捗状況調書

基本施策	3 豊かな心と健やかな身体の育成
支援策	7 豊かな心を育てる教育の推進

●支援策の概要

成果目標	児童生徒が自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができ、道徳的な価値観や、あらゆる人権課題を解決する意欲と実践力を身に付けられるようにします。
主な施策の展開	① 社会性や規範意識の育成 ② 人権教育の推進 ③ 道徳の特別教科化に向けた準備

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)		目標 (平成32年度)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度				
						実績	実績	実績	実績				
進捗状況	① 一日1時間以上、携帯電話やスマートフォンを使用する児童生徒(小6、中3)の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 14.3%	中学校 40.5%	小学校 12.0%	中学校 35.0%	小学校 16.0%	中学校 39.8%	小学校 16.0%	中学校 40.4%	平成30年度における調査なし	令和元年度における調査なし		
	② 「人の気持ちがわかる人間になりたい」と答える児童生徒(小6、中3)の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 94.2%	中学校 96.7%	小学校 97.0%	中学校 98.0%	平成28年度における調査なし	平成29年度における調査なし	平成30年度における調査なし	令和元年度における調査なし	令和元年度における調査なし			
	③ 「人の役に立つ人間になりたい」と答える児童生徒(小6、中3)の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 92.7%	中学校 95.4%	小学校 95.0%	中学校 97.0%	小学校 92.7%	中学校 93.6%	小学校 92.4%	中学校 92.1%	小学校 94.7%	中学校 96.3%	小学校 94.0%	中学校 93.7%
	④ 「家の人と学校での出来事について話をしている」と答える児童生徒(小6、中3)の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 79.1%	中学校 76.4%	小学校 85.0%	中学校 85.0%	小学校 77.9%	中学校 74.1%	小学校 76.8%	中学校 76.2%	小学校 78.9%	中学校 75.6%	小学校 78.4%	中学校 76.0%

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○スマートフォンやタブレットなどネットに接続する情報機器の適切な活用方法や危険性を啓発するため、児童生徒・保護者向けのリーフレットを作成配布しました。</p> <p>○全小中学校で指名されている「人権同和教育担当主任教諭」を中心に校内研修を実施し、児童生徒や教職員の人権意識の高揚を図りました。</p> <p>○ネットによるトラブルや性被害などの犯罪に巻き込まれないよう、情報モラル教育の推進、公開授業や日常授業での実践を通じた道徳教育に取り組みました。</p>
--

2 課題と今後の取組方針

<p>○児童生徒の身の回りにある身近なテーマを取り上げた人権教育の必要性が高まっています。児童生徒、教職員への理解を進めるための研修や活動が行われるよう、関係部局と連携していきます。</p> <p>○人権意識を高めるとともに、ネットによるトラブルや性被害などの犯罪に巻き込まれないよう、引き続き啓発を行っていきます。</p>
--

進捗状況調書

基本施策	3 豊かな心と健やかな身体の育成
支援策	8 食育の推進

●支援策の概要

成果目標	学校における食育を推進し、児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるようにします。
主な施策の展開	① 食育の推進と地産地消の学校教育の充実（農林部連携事業） ② アレルギー対応の充実

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
進捗状況	① 毎日朝食を食べる児童生徒(小6、中3)の割合(全国学力・学習状況調査)	小学校 96.4% 中学校 94.6%	小学校 97.0% 中学校 96.0%	小学校 96.2% 中学校 93.9%	小学校 95.6% 中学校 95.6%	小学校 94.7% 中学校 93.4%	小学校 95.8% 中学校 94.7%
	② 栄養教諭・栄養士が関わった食に関する授業回数(学校教育課)	小学校 492回 中学校 137回	小学校 540回 中学校 150回	小学校 510回 中学校 119回	小学校 370回 中学校 110回	小学校 298回 中学校 110回	小学校 553回 中学校 95回
	③ 給食での地元産食材使用割合(学校教育課)	青果 20.0% 米 100.0% 青果+米 42.8%	青果 22.0% 米 100.0% 青果+米 48.0%	青果 22.5% 米 100.0% 青果+米 45.6%	青果 17.3% 米 100.0% 青果+米 41.1%	青果 16.0% 米 99.8% 青果+米 40.1%	青果 15.8% 米 99.9% 青果+米 40.7%

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<ul style="list-style-type: none"> ○栄養教諭や栄養士が関わり、食に関する授業を行いました。 ○学校支援ボランティアと連携した農業体験を、市内すべての小中学校で実施しました。 ○給食における地産地消を進めることで、食料の生産や地域の食材に関する理解を深めました。 ○地産地消推進会議に出席し、各種団体と意見交換を行いました。また、9月、11月、12月、2月に企画給食を各センター、自校給食校で実施しました。
--

2 課題と今後の取組方針

<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を食べる小学生が目標値より低くなっていることから、生活習慣を身に付けることへの取り組みが必要と考えます。生活・学習ノート「紡ぐ」の活用などを通じて家庭への協力を呼び掛けていきます。 ○給食を生きた教材とし、継続した食育実践が出来るよう、計画的な指導を行っていきます。 ○家庭での農業体験がない児童が増えていることから、小学校での農業体験は貴重な体験となります。継続して実施できるよう学校支援ボランティアとも連携して取り組みます。

進捗状況調書

基本施策	3 豊かな心と健やかな身体の育成
支援策	9 体力づくりの推進

●支援策の概要

成果目標	運動やスポーツに取り組む児童生徒を増やし、体力の向上を図る。
主な施策の展開	① 学校、スポーツ活動団体等が連携した体力向上の取組 ② 運動部活動の適正化の推進 ③ 「健康都市上田」実現に向けた取組の推進（健康こども未来部連携事業）

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
		①	全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点(小5、中2) (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	小5 男 52.83点 女 53.09点 中2 男 41.16点 女 46.97点	小5 男 55.00点 女 55.50点 中2 男 43.50点 女 49.00点	小5 男 53.16点 女 53.44点 中2 男 42.68点 女 47.07点	小5 男 52.77点 女 54.41点 中2 男 41.70点 女 46.69点
②	「運動することが好き」と回答する児童生徒(小5、中2)の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	小学校 90.4% 中学校 82.7%	小学校 91.0% 中学校 85.0%	小学校 91.7% 中学校 83.1%	小学校 91.0% 中学校 83.9%	小学校 90.4% 中学校 82.5%	小学校 92.2% 中学校 86.1%
③	「夢の教室」の実施回数 (スポーツ推進課)	11学級	15学級	14学級	15学級	20学級	20学級
④	「(仮称)体力づくりチャレンジカード」作成 (学校教育課)	未作成	全小中学校で実施	未着手	未着手	未着手	未着手

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○トップアスリートから直接指導が受けられる「夢の教室」の開催を通じ、児童が運動に親しむ機会をつくりました。</p> <p>○県教育委員会が策定した「中学生期のスポーツ活動指針[改訂版]」に基づき、「上田市立中学校に係る活動の方針」を改訂し、部活動の適切な運営を行うよう中学校関係者周知しました。</p> <p>○中学校の部活動に「部活動指導員」5名を任用しました。(一中:合唱部、塩田中:合唱部、丸子中:テニス部、剣道部、丸子北中:柔道部)</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>○「夢の教室」等を通じ、児童生徒が運動に親しみ、体力向上につながるよう努めていきます。</p> <p>○「長野県中学生期のスポーツ活動指針[改訂版]」の見直しに基づき、学校の部活動について一定規模の地域単位での活動も視野に入れた見直しが必要です。</p> <p>○「健康都市上田」の実現に向け、全市的に取り組んでいる健康づくり事業に小中学生も参画できるよう、担当部局との協議を行います。</p>
--

進捗状況調書

基本施策	4 すべての子どもの学びを支援
支援策	10 いじめ・不登校など悩みを抱える児童生徒への支援

●支援策の概要

成果目標	学校、家庭、地域、関係機関が連携した支援体制を整備し、児童生徒が安心して登校し、学校生活を送ることができるようにします。
主な施策の展開	① いじめに対する取組の充実 ② 不登校児童生徒に対する支援体制の整備 ③ 相談支援体制の充実

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度 実績	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績
		①	いじめ認知件数に対する解消率 (児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査)	小学校 87.8% 中学校 92.7%	小学校 95.0% 中学校 95.0%	小学校 93.5% 中学校 88.6%	小学校 97.2% 中学校 96.6%
②	「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と答える児童生徒(小6、中3)の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 96.4% 中学校 94.4%	小学校 97.0% 中学校 96.0%	小学校 95.3% 中学校 92.5%	小学校 96.5% 中学校 93.6%	小学校 96.2% 中学校 94.8%	小学校 96.5% 中学校 93.4%
③	小中学校における不登校児童生徒の在籍率 (児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査)	小学校 0.40% 中学校 2.69%	小学校 0.30% 中学校 2.50%	小学校 0.47% 中学校 3.00%	小学校 0.49% 中学校 3.01%	小学校 0.43% 中学校 2.99%	小学校 1.16% 中学校 4.28%

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○上田市いじめ問題対策連絡協議会を開催し、関係機関との情報共有を図りました。</p> <p>○不登校や悩みを抱える児童生徒を支援するため、教育相談所の設置、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣、心の教室相談員の配置など相談体制の充実を図ってきました。</p> <p>○不登校児童生徒の在籍率は依然として高く、家庭環境等、要因が複雑多様化しており、今年度から県のスクールソーシャルワーカーの派遣を受け、状況に応じた相談・支援を行っています。</p> <p>○いじめ問題対策委員会等を全校で設置するとともに、生活・学習ノート「紡ぐ」やアンケートを通じ、子どもの様子など日常観察によって、早期発見・早期対応に努めています。</p> <p>○いじめ認知件数は過去最多となる状況ですが、解消率は全国・県と比較して高く、学校が児童生徒の状況をきめ細かく観察し、適切な対応が取れるよう、必要に応じ教育委員会指導主事による指導を行い、学校を支援しました。</p> <p>○「SOSの出し方に関する教育」を実施しました。</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>○「上田市いじめ問題対策連絡協議会」の開催を通じ、関係機関等との連携を図っていきます。</p> <p>○心の教室相談員の配置、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの派遣を通じて児童生徒の相談体制を整えます。また、教育相談所、ふれあい教室、特別支援教育担当、発達相談センターなどが協力し、多面的で継続的に支援が行える体制づくりを進めてまいります。</p> <p>○生徒が自らを大切な存在と認識し、悩みを抱えたときには信頼できる大人に相談する力が身に付くよう「SOSの出し方に関する教育」を推進していきます。担任教諭、保健体育教諭、養護教諭等が日常の教科教育の場面でも繰り返し行い、全校がSOSの出し方に関する教育に取り組む必要があります。</p>

進捗状況調書

基本施策	4 すべての子どもの学びを支援
支援策	11 特別な支援を要する児童生徒への支援

●支援策の概要

成果目標	小中学校における支援体制の整備と、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を図ります。
主な施策の展開	① 特別支援教育の充実 ② 障がいの重度、重複化に伴う特別支援教育の充実 ③ 発達障がいのある児童生徒への支援体制の整備（福祉部、健康こども未来部連携事業） ④ 外国籍児童生徒への適応支援（市民参加協働部連携事業）

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
進 捗 状 況	① 保護者と学校が共同して作成した「個別の指導計画」作成率 (特別支援教育に関する調査)	72.4%	対象となる全ての児童生徒について作成	75.6%	71.0%	85.4%	86.5%
	② 「個別の教育支援計画」作成率 (特別支援教育に関する調査)	66.7%	対象となる全ての児童生徒について作成	75.1%	67.3%	72.2%	83.0%
	③ 特別支援学級へのタブレット型端末導入校数 (学校教育課)	小学校 2校 中学校 2校	全小中学校に配置	小学校 10校 中学校 5校	全小中学校に配置	全小中学校に配置	全小中学校に配置
	④ 発達障がいに関する研修会参加教職員数 (定住自立圏事業研修会参加者)	158人	初任又は上田市初赴任教員は初年度、継続赴任教員は3年度毎に受講	295人	249人	243人	284人

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

○「個別の指導計画」の作成率の向上と、全ての教員が作成できるよう普及を進めるとともに研修会を開催しました。 ○iPad12台を5校に貸し出し、実証事業を行いました。 ○全ての子どもが確実に「読み」を習得できるよう、多層指導モデルMIMを8校がモデル校として取り組みました。 ○「楽しい学びの通信」を発行し、特別支援教育に関する情報を全小中学校に発信しました。 ○長野大学社会福祉学部と塩田地区4小中学校がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善に取り組み、その研究成果を発信し、各校のユニバーサルデザイン化を進めています。
--

2 課題と今後の取組方針

○障がいのある子どもの自立や社会参加に向けて、持てる力を最大限に伸ばすための支援が必要です。就学前から義務教育修学後まで切れ目のない支援体制を構築するため、市独自の支援シート「つなぐ」や「個別の教育支援計画」の普及作成を進めます。 ○通常の学級における「個別の指導計画」を活かす授業づくりを進めます(モデル校3校(1小学校、2中学校))。 ○MIMを市内5小学校の1学年でモデル活用し、児童の読みの指導と学力向上を図ります。 ○特色ある教育を支援する教員配置事業によって配置されるMIMに特化した教員の巡回指導を行います。 ○医療的ケアが必要な児童が、安全・安心に学校生活が送れるよう、特別支援教育支援員(看護師)の配置を行います。 ○市民まちづくり推進部や上田市多文化共生推進協会との連携を図りながら、外国籍児童生徒に対する支援体制を整えてまい
--

進捗状況調書

基本施策	5 地域とともにある学校づくり
支援策	12 地域による学校支援の仕組みづくりの推進

●支援策の概要

成果目標	地域の教育力を活用し、児童生徒に多様な学習や体験の機会を提供します。
主な施策の展開	① 地域とともにある学校づくりの推進（政策企画部連携事業） ② 学校・家庭・地域の連携を支援

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
①	信州型コミュニティスクール等の要件を満たす学校数 (学校教育課)	小学校 12校 中学校 6校	全ての小中学校が要件を満たす	全ての小中学校が要件を満たした	全ての小中学校が要件を満たした	全ての小中学校が要件を満たした	全ての小中学校が要件を満たした
②	学校と地域を結ぶ、地域の 人材を活用したコーディネーターの配置数 (学校教育課・生涯学習課)	なし	10人	0人	1人	1人	1人
③	学校ボランティアバンク登録者数 (学校教育課・生涯学習課)	29人 学校支援ボランティア	350人 新制度構築	30人	1,305人 (30.2.28現在)	1,343人 (31.2.4現在)	1,570人 (R2.3.3現在)

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○全小中学校が信州型コミュニティスクールの要件を満たすことで、各学校による様々な取組がなされ、地域に開かれた、地域とともにある学校づくりが広がりました。</p> <p>○学校支援に関するチラシを自治会、保護者等に配布するとともに、市ホームページに掲載し広く広報しました。</p> <p>○コーディネーター等のスキルアップ講座、研修会をそれぞれ1回ずつ実施しました。</p> <p>○ボランティア保険の加入を促進しました(随時加入(3月3日現在1,570人(+227人))。</p> <p>○平成29年4月1日に生涯学習・文化財課へ統括コーディネーターを1名配置。</p>
--

2 課題と今後の取組方針

<p>○学校の実情や地域の特性を生かしながら継続した取組となるよう持続可能な体制を整備していくことが必要です。</p> <p>・学校、地域ごとで取組状況に差があり、ボランティア等の固定化、高齢化が進んでいるため、コーディネーター・ボランティアの育成とネットワークづくりが重要です。</p> <p>○幅広い地域住民や団体等に参画を呼び掛ける手段として、市ホームページ等を活用し活動の見える化を進めます。</p> <p>○研修会等の学びの場をつくり、コーディネーター・ボランティアのスキルアップと活動の底上げを図ります。</p>
--

進捗状況調書

基本施策	5 地域とともにある学校づくり
支援策	13 地域を学び、地域に対する愛着を深める教育の推進

●支援策の概要

成果目標	児童生徒が豊かな自然や地域の文化を体験できる活動に参加し、郷土に誇りと愛着を持てるようにします。
主な施策の展開	① ふるさと教育の推進 ② 「特色ある学校づくり交付金」を活用した支援

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
進 捗 状 況	① 「地域の行事に参加している」と答える児童生徒(小6、中3)の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 90.4% 中学校 66.2%	小学校 94.0% 中学校 70.0%	小学校 91.1% 中学校 62.6%	小学校 88.0% 中学校 61.3%	小学校 87.7% 中学校 59.3%	小学校 90.8% 中学校 68.1%
	② 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」と答える児童生徒(小6、中3)の割合 (全国学力・学習状況調査)	小学校 42.7% 中学校 31.6%	小学校 45.0% 中学校 35.0%	平成28年度における調査なし	小学校 40.8% 中学校 34.3%	小学校 45.1% 中学校 37.6%	小学校 58.1% 中学校 40.1%
	③ 「(仮題)ふるさと上田人物伝」を活用した授業の取組校数 (学校教育課)	なし	全小中学校で実施	0 作成中	全小中学校に配布し授業で活用	全小中学校に配布し授業で活用	全小中学校に配布し授業で活用

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○特色ある学校づくり交付金、信州型コミュニティスクールの有効性を活用し、総合的な学習の時間や特別活動等で地域の方を講師とした授業を取り入れました。</p> <p>○地域の行事に参加している割合は、全国と比較すると小学校で+22.8%、中学校で+17.5%であり、積極的に参加し地域との繋がりの良さが窺えます。</p> <p>○政策企画部と連携し、地域に受け継がれた歴史、文化、産業等を学ぶことを通じて地域に誇りと愛着を持ってもらうため、「信州上田学」事業を実施しました。(小学校2校、中学校1校 延べ567人参加)</p>
--

2 課題と今後の取組方針

<p>○ふるさとを大切に思う心や伝統、文化を尊重する態度を育むため、特色ある学校づくり交付金などを活用した取組、信州上田学事業を推進していきます。</p>

進捗状況調書

基本施策	6 環境、防災・防犯教育の推進
支援策	14 自然を守り、災害や犯罪から自らを守る教育の推進

●支援策の概要

成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に環境保全や省エネルギーに取り組む姿勢を育てます。 災害や事故、犯罪から身を守ることができるようにするとともに、互いに助け合う意識の向上を図ります。
主な施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境教育の推進（生活環境部連携事業） ② 防災教育等学校安全の充実（総務部、消防部連携事業）

●評価

1 支援策の達成状況

(1)測定指標の進捗状況

進捗状況	指標項目	基準 (平成27年度)	目標 (平成32年度)	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
				実績	実績	実績	実績
①	(仮称)こどもエコ推進員活動取組校数 (学校教育課)	未策定	全小中学校で実施	未着手	未着手	未着手	未着手
②	消防団と連携した防災行事を行う小学校数 (消防部・消防団本部)	11校	全小学校で実施	11校	11校	11校	13校

(2)主な施策の展開における、令和元年度の実施内容

<p>○各校では、校長を責任者として、ごみの分別、紙のリサイクル、植物の水やり等、環境にやさしい学校づくりに取り組みました。</p> <p>○小学校4年生の社会科見学として、全小学校が上田、丸子クリーンセンターを見学し、ごみの循環や、分別化、減量化に向けた市の取組を学びました。</p> <p>○上田市ごみ減量アドバイザーが中心となって主に小学4年生から6年生までを対象に、こどもごみ探検隊を実施し、児童の視点でごみ問題や環境について学び、考える機会を設けました。(小学生14人参加)</p> <p>○「見守り隊」や「安心の家」など、地域全体で交通事故や犯罪から児童生徒の安全を見守る体制を整えました。また、「上田市役所安全パトロールチーム(通称:青パト)」を実施しました。</p> <p>○児童生徒の防災に対する意識を高めることと、地域で活動する消防団との交流を図るため、消防団と連携した防災行事を継続的に実施しました。</p>

2 課題と今後の取組方針

<p>○市が目指す「ゴミ減量化」に児童生徒が参画できるよう、社会科見学時の教育や、児童会・生徒会に対しての働きかけを、担当部局と連携し進めます。</p> <p>○児童生徒が犯罪から自らの身を守るため、支援や経験を有する専門機関による講演会の実施、自助・互助の意識を高めるための地域防災組織との連携を引き続き実施します。</p>

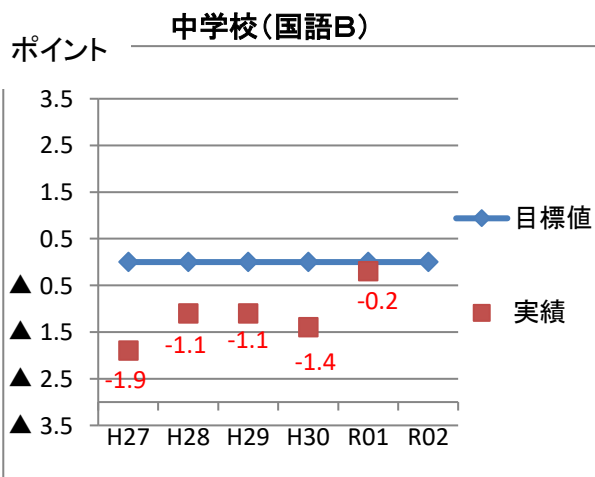
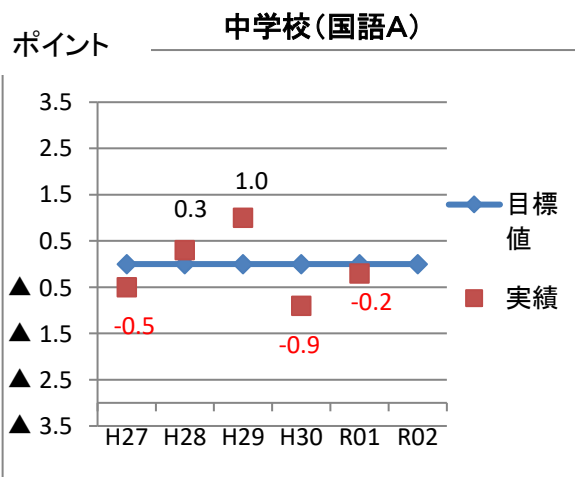
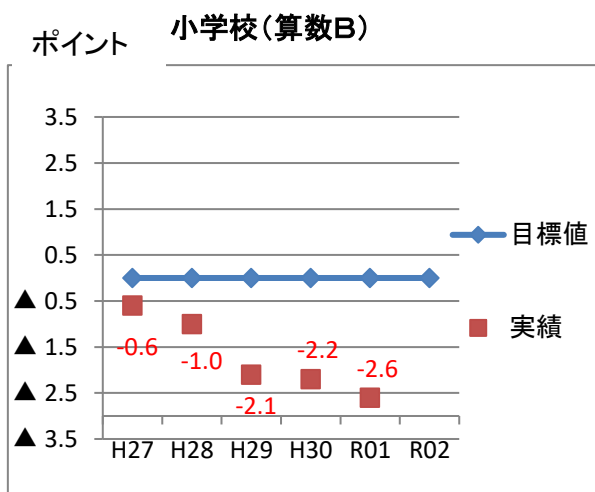
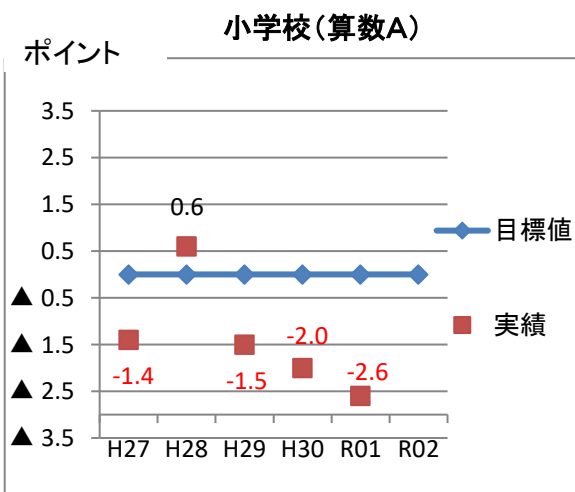
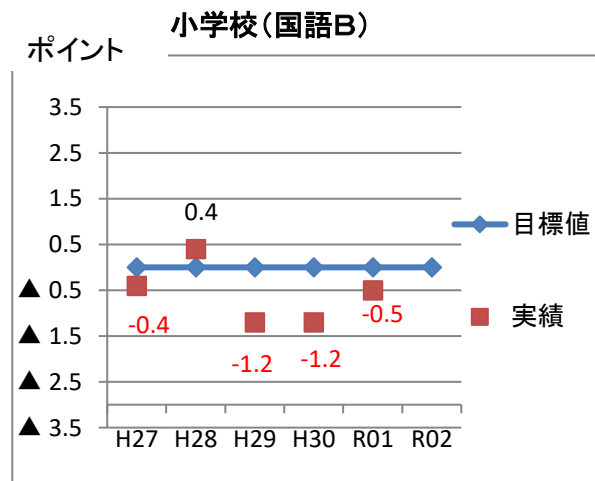
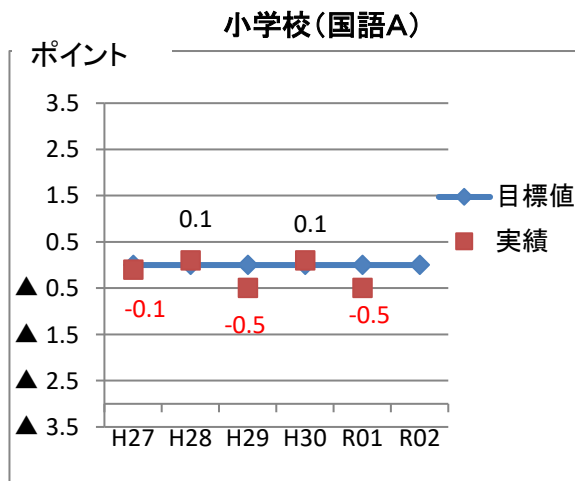
第2期上田市教育支援プラン 測定指標進捗状況(令和元年度)

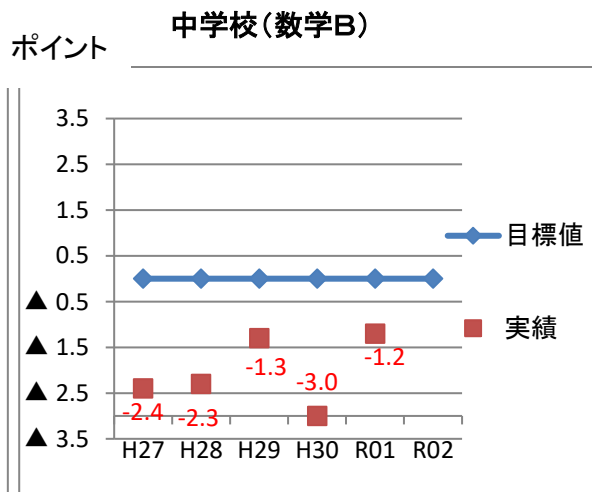
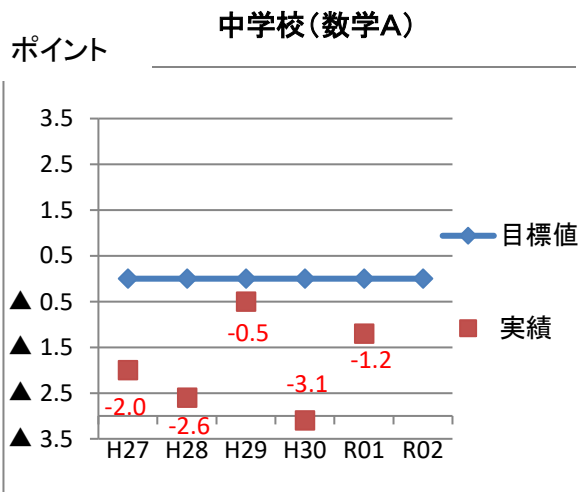
●支援策1

○測定指標

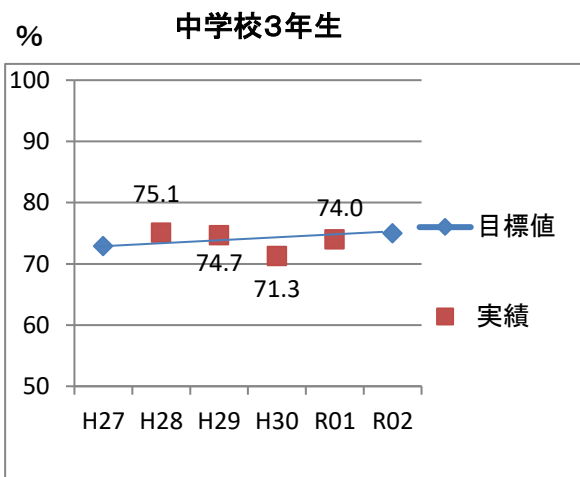
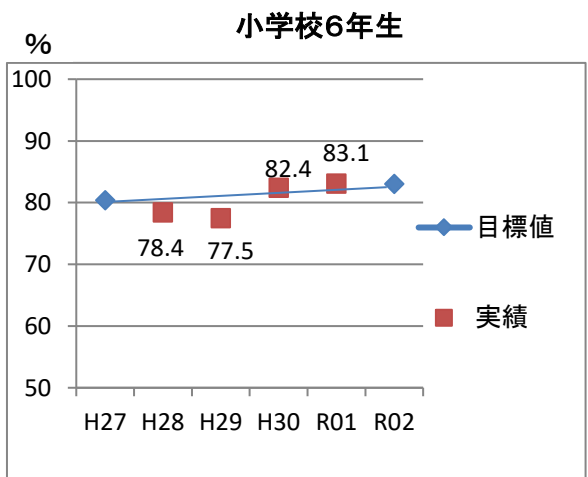
①全国学力・学習状況調査平均正答率(全国平均との比較)

・令和元年度から、国語、算数・数学の基礎Aと応用Bの問題が統一されたため、AB同一の数値とする。





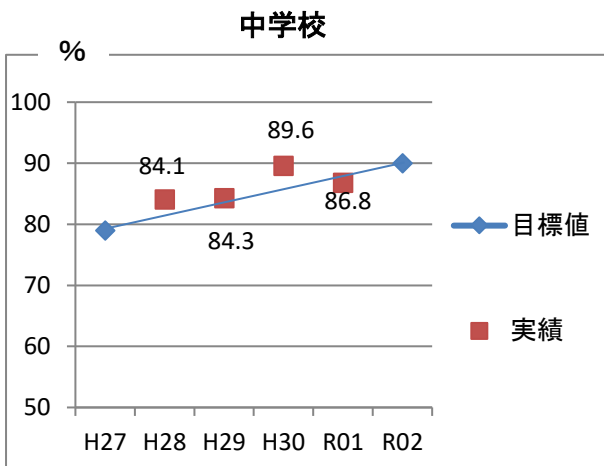
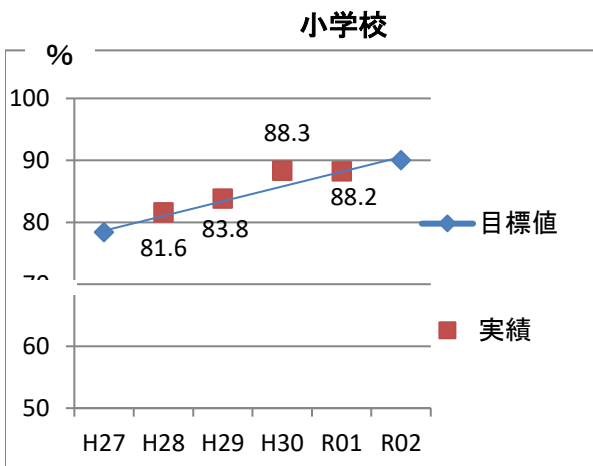
②「授業がわかる」と回答する児童生徒の割合



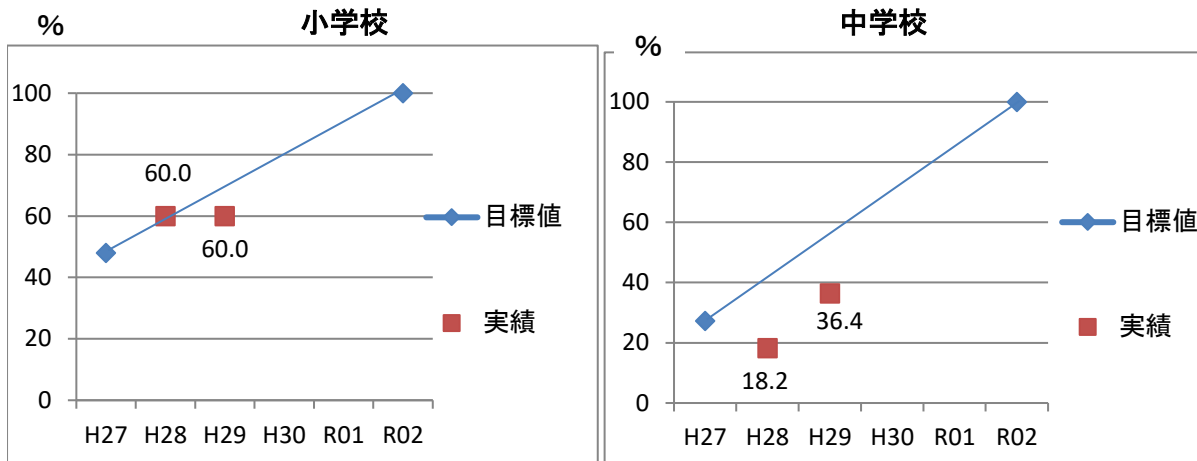
●支援策2

○測定指標

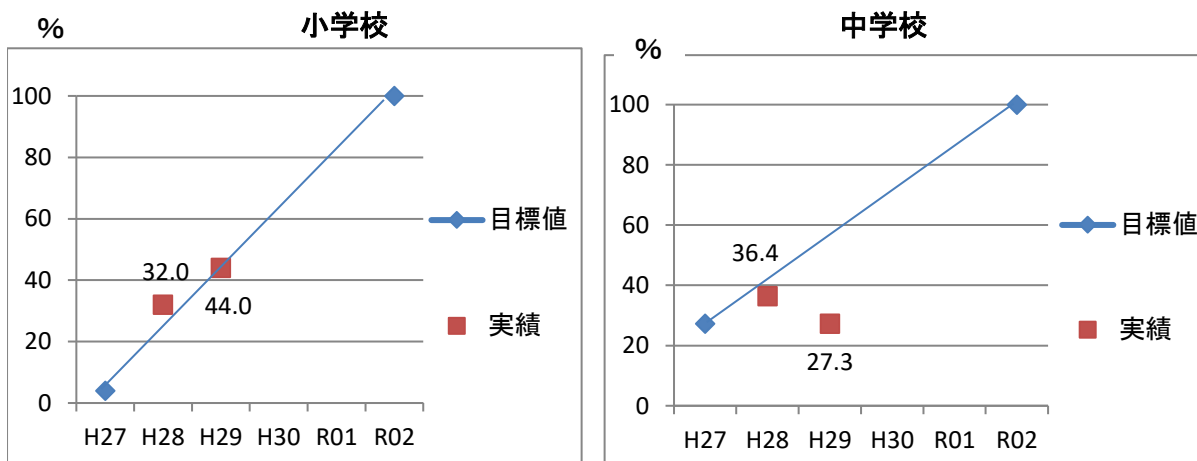
①教員のICT活用指導力



②コンピューター等情報通信機器を活用して授業を行ったと答える学校の割合



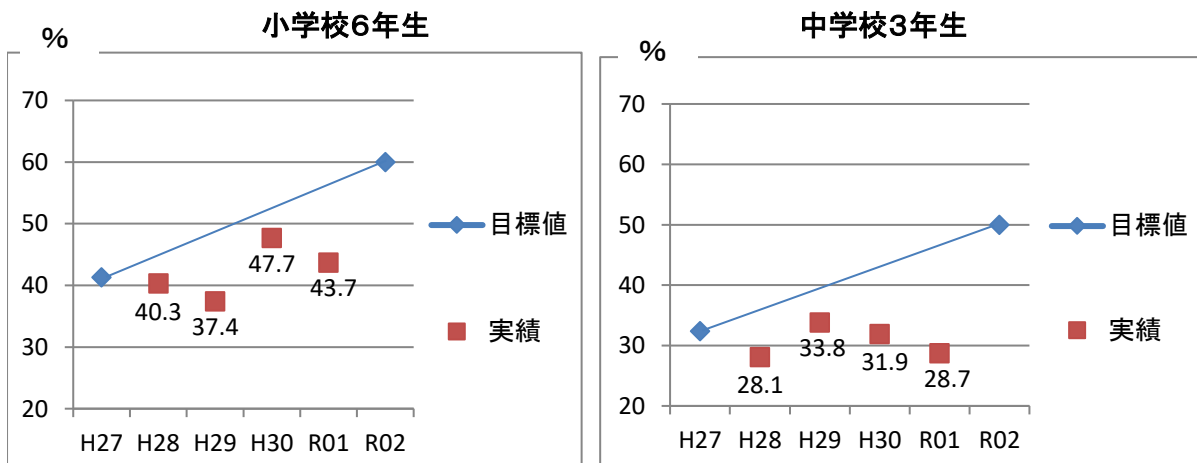
③デジタル教科書などICT機器を活用した授業(算数・数学)の実施状況



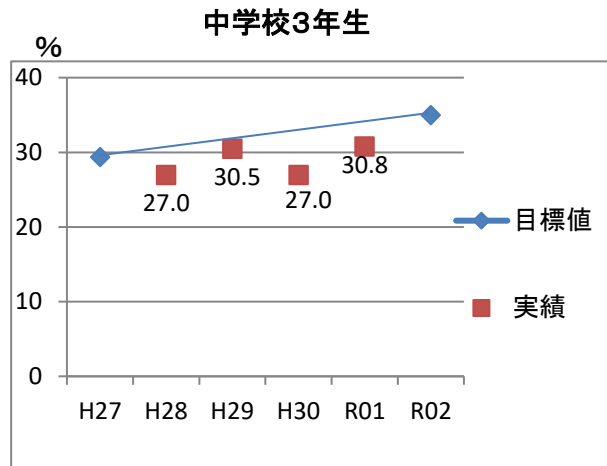
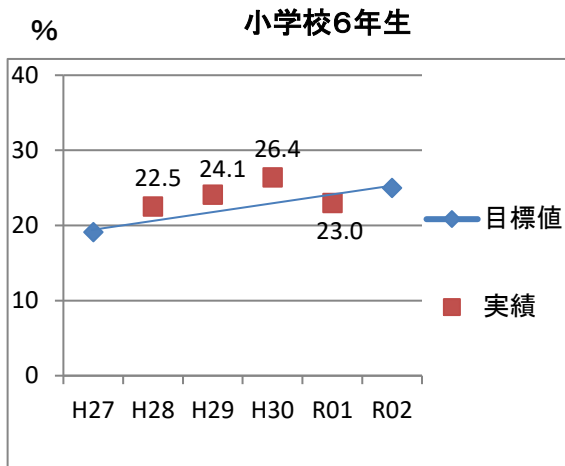
●支援策3

○測定指標

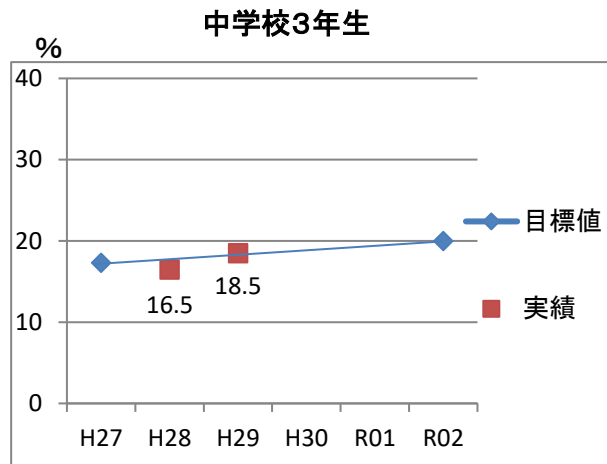
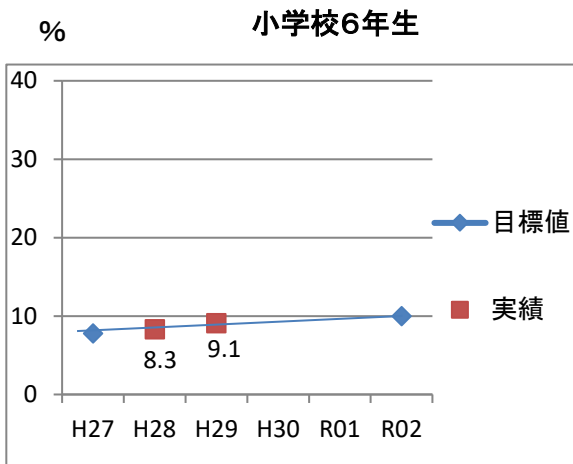
①一日当たり、30分以上読書をする児童生徒の割合



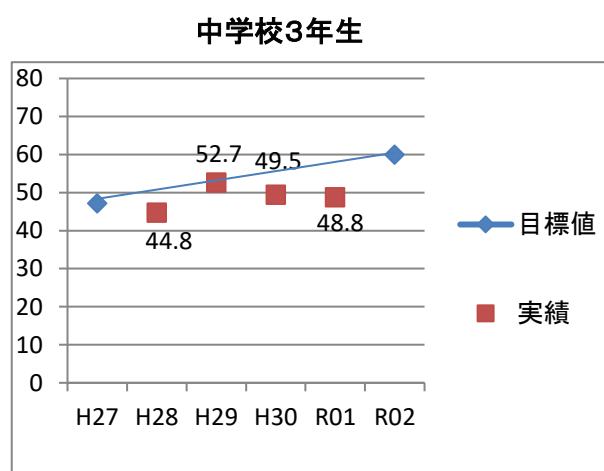
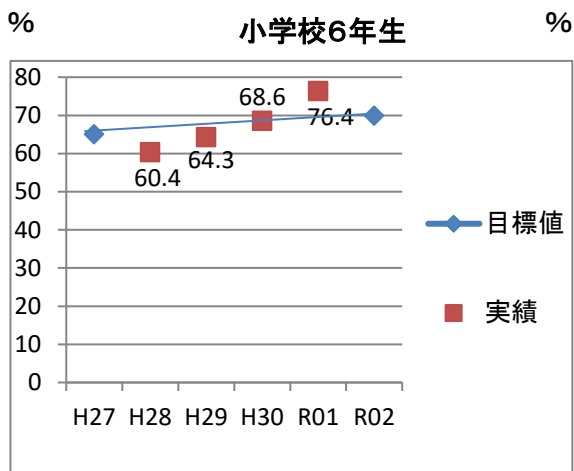
②家庭学習時間数(平日2時間以上行う割合)



②家庭学習時間数(休日3時間以上行う割合)



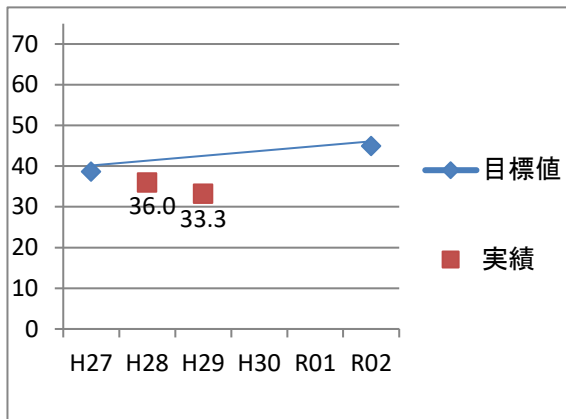
②計画を立てて家庭学習を行う割合



②予習など授業につながる内容に取り組む割合

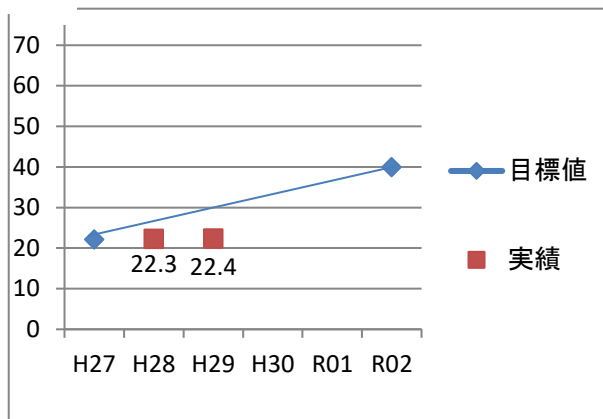
%

小学校6年生



%

中学校3年生



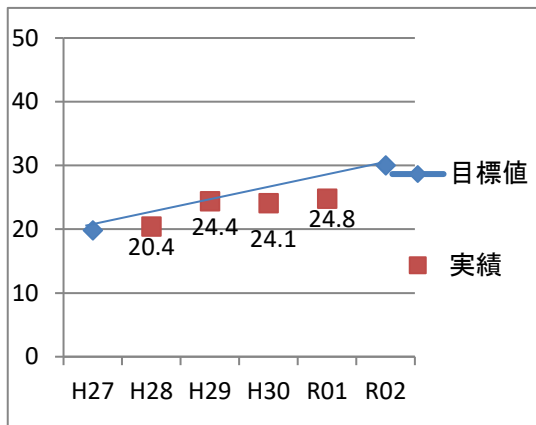
●支援策4

○測定指標

②英語コミュニケーション能力水準(中3)

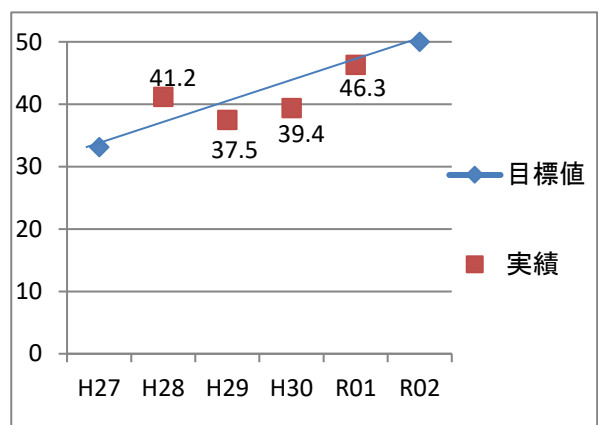
%

英語検定3級以上取得者



%

英語検定3級レベル者



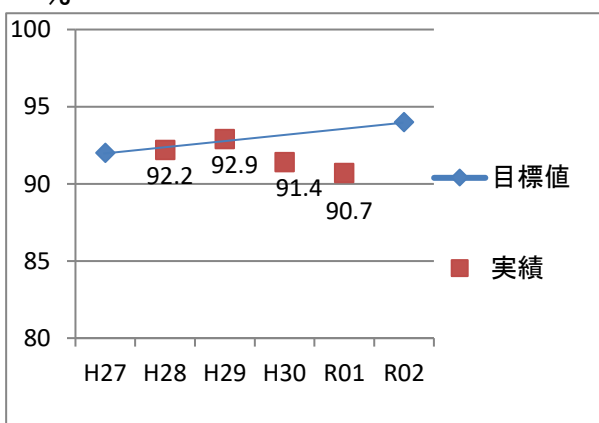
●支援策5

○測定指標

①「学校に行くのは楽しい」と回答する児童生徒の割合

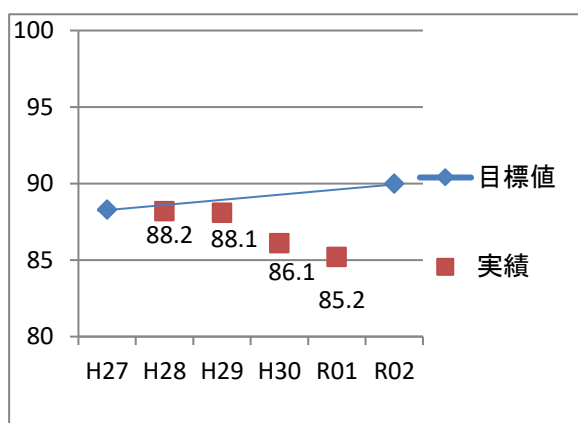
%

小学校6年生

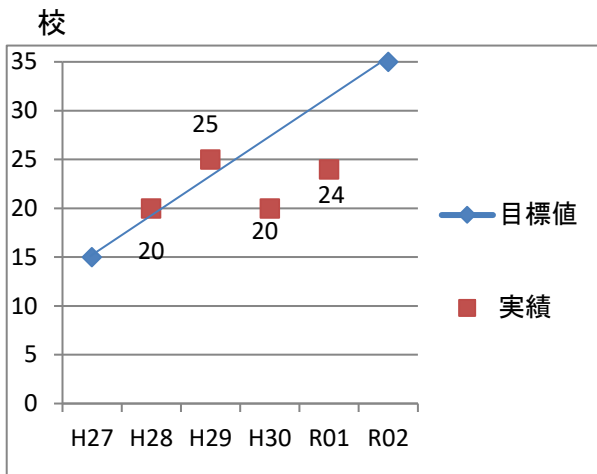


%

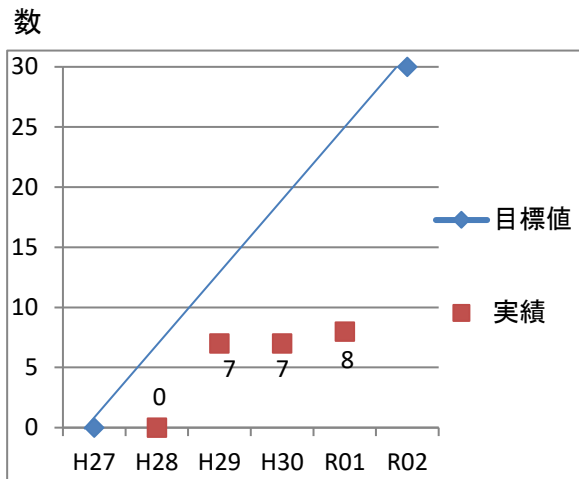
中学校3年生



②市内4年生大学等高等教育機関との連携事業実施校数(小中学校合計)



③市内4年制大学等高等教育機関が提供する出前講座数

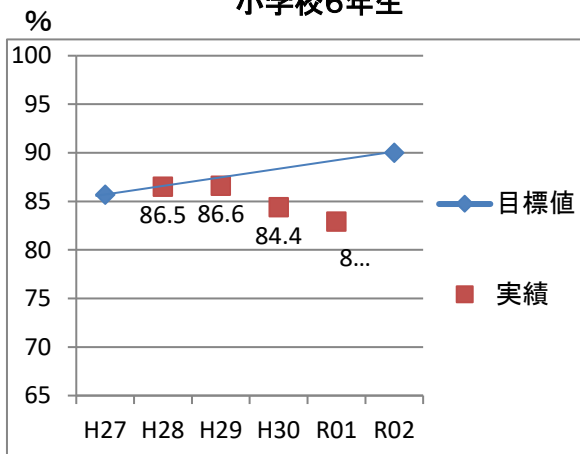


●支援策6

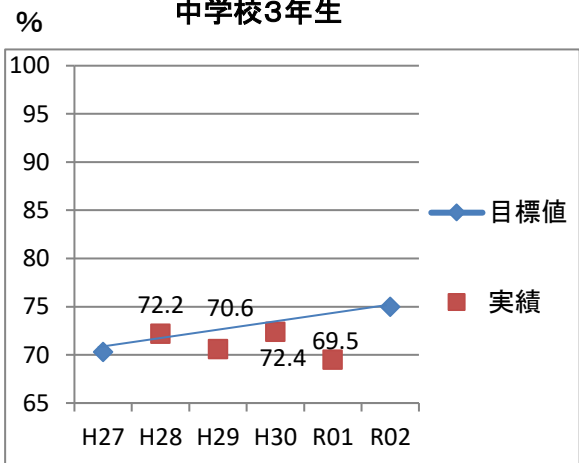
○測定指標

①「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童生徒の割合

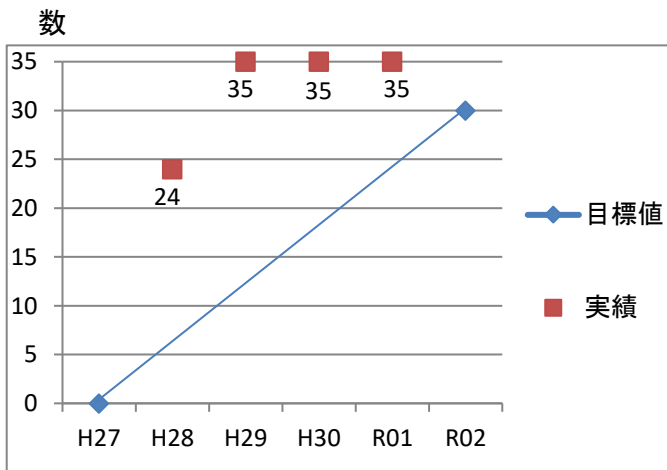
小学校6年生



中学校3年生



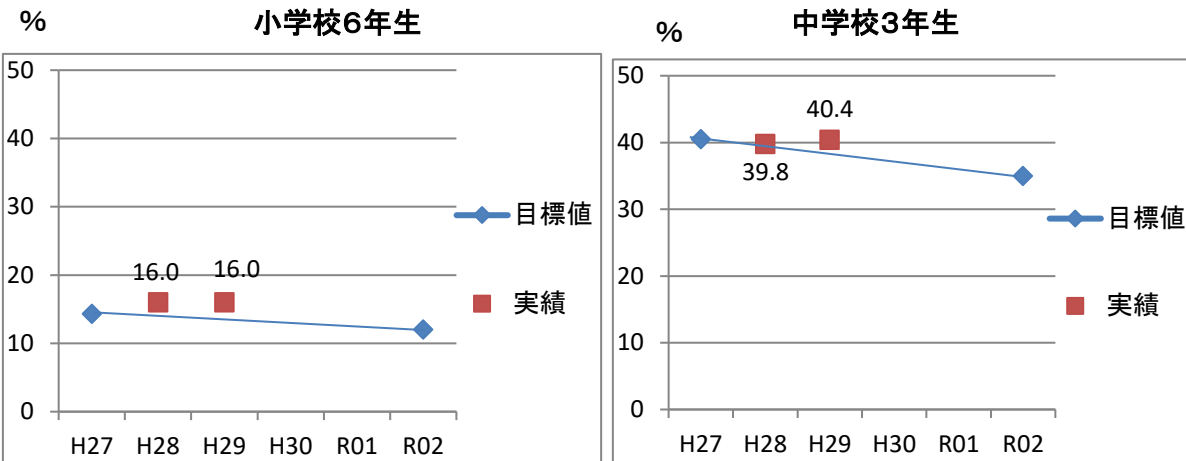
②キャリア教育出前講座数



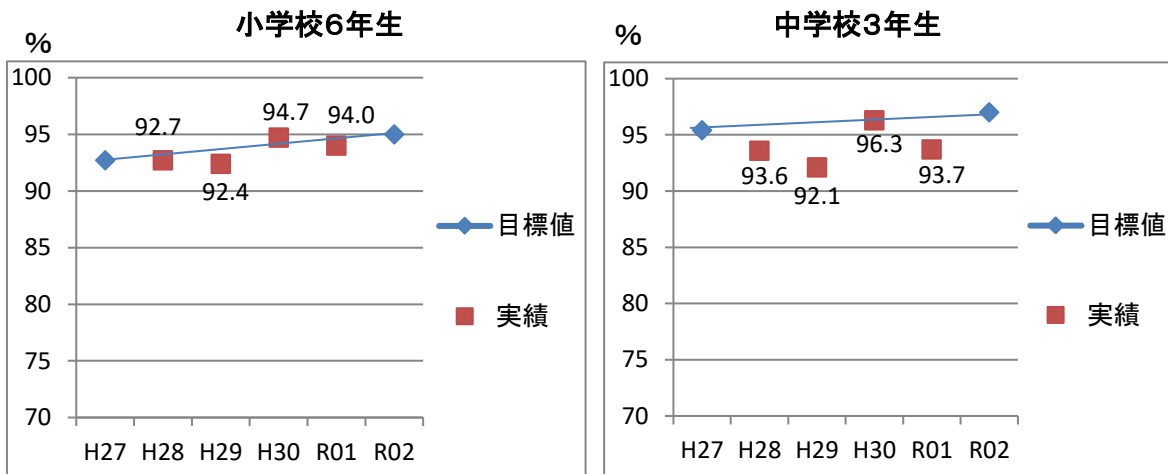
●支援策7

○測定指標

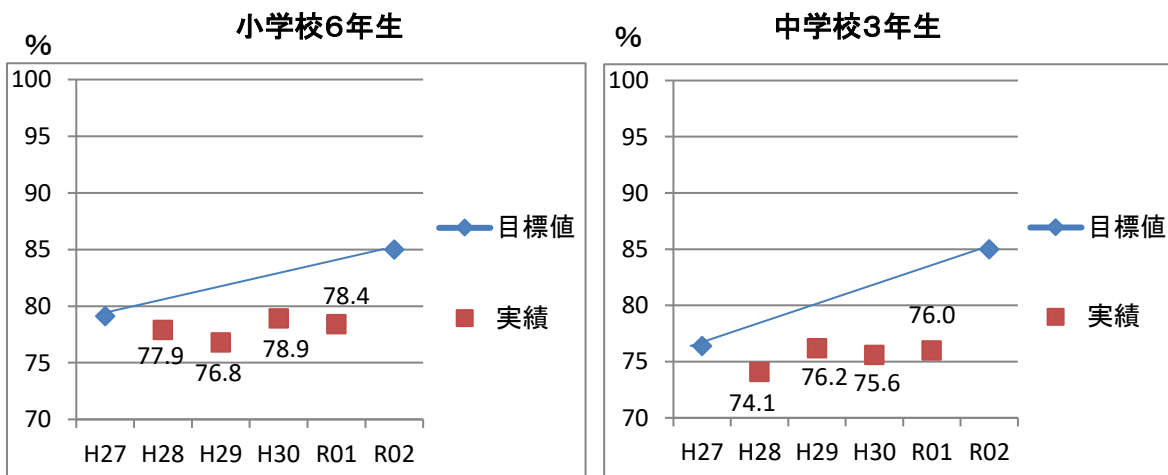
①一日1時間以上、携帯電話やスマートフォンを使用する児童生徒の割合



③「人の役に立つ人間になりたい」と回答する児童生徒の割合



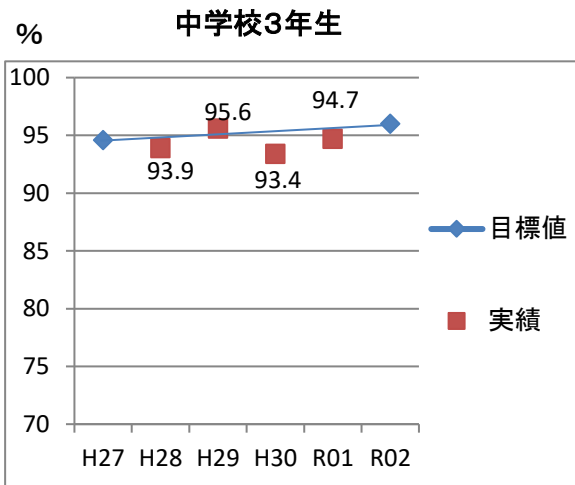
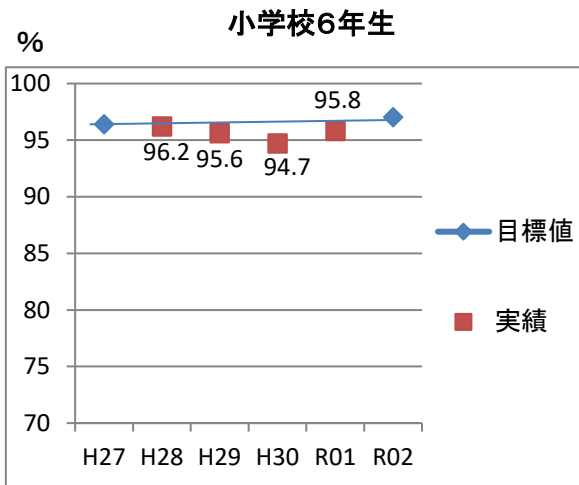
④「家の人と学校での出来事について話をしている」と回答する児童生徒の割合



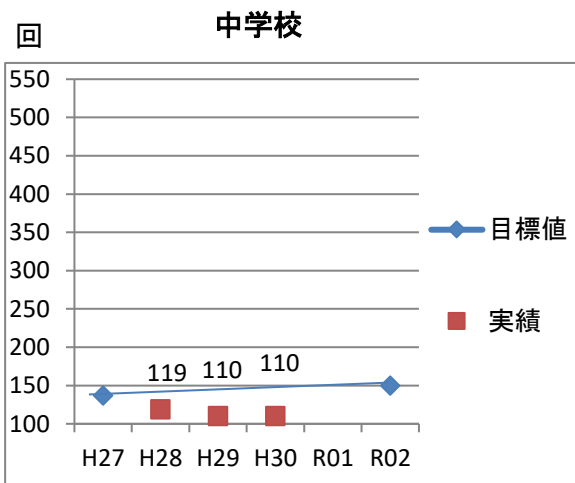
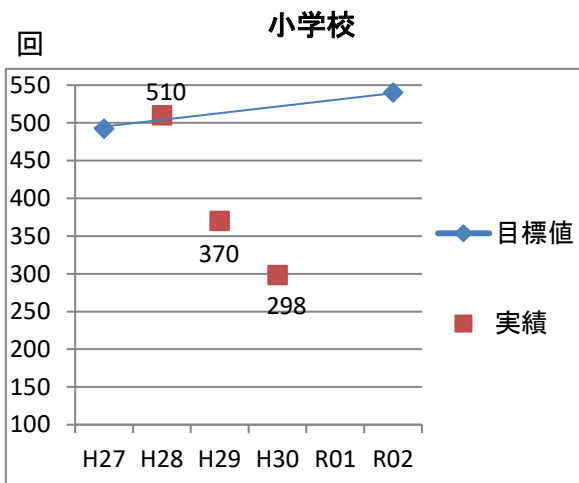
●支援策8

○測定指標

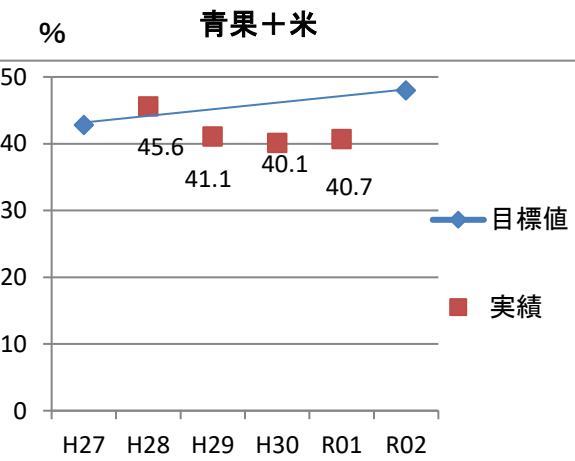
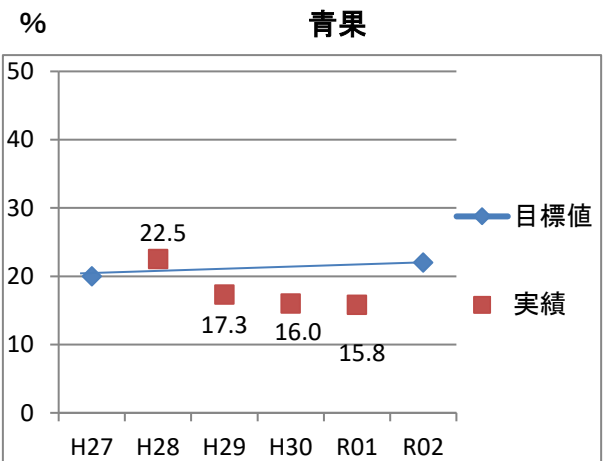
①毎日朝食を食べる児童生徒の割合



②栄養教諭・栄養士が関わった食に関する授業回数



③給食での地元産食材使用割合

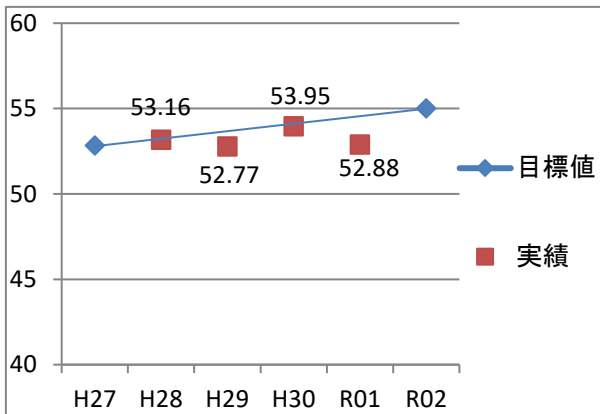


●支援策9

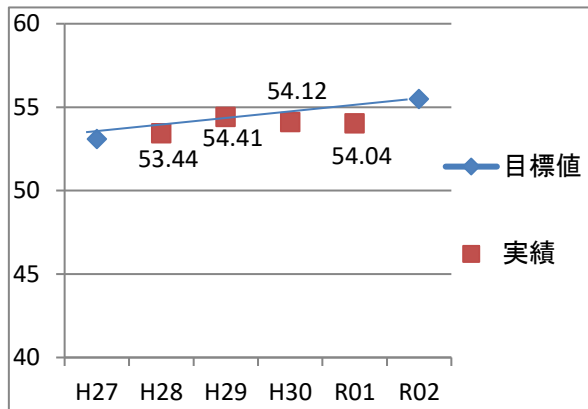
○測定指標

①全国体力・運動能力、運動習慣等調査での体力合計点

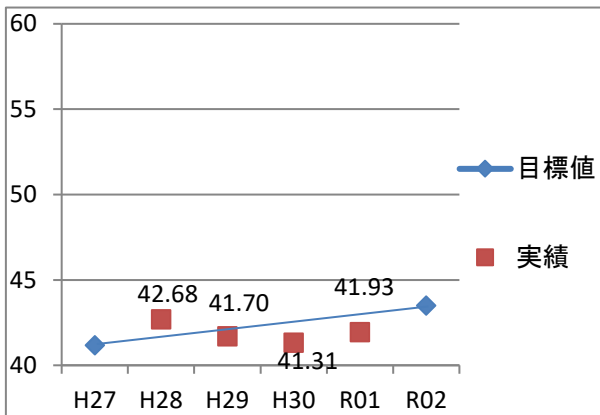
点 小学校5年(男子)



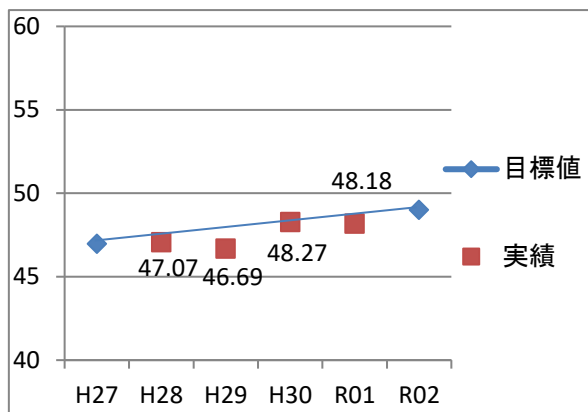
点 小学校5年(女子)



点 中学校2年(男子)

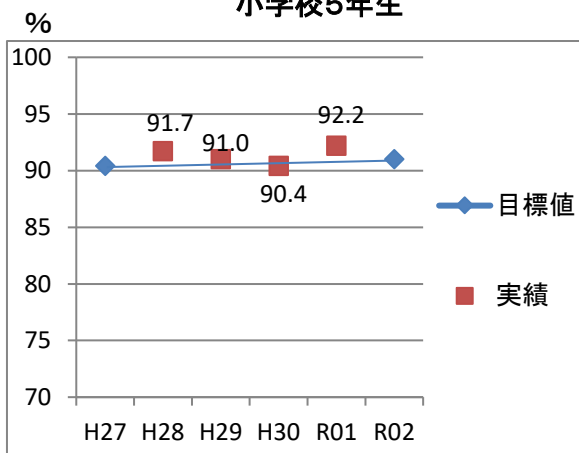


点 中学校2年(女子)

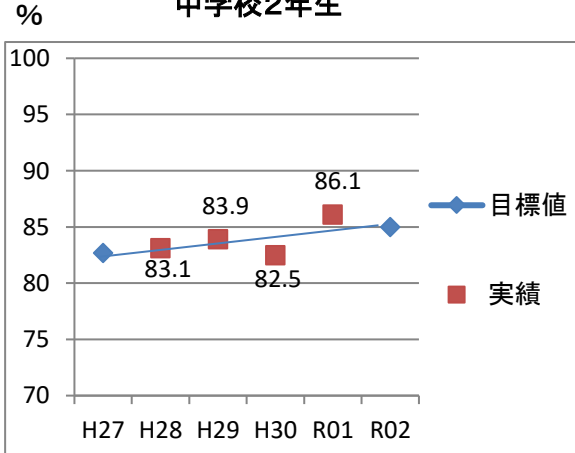


②「運動することが好き」と回答する児童生徒の割合

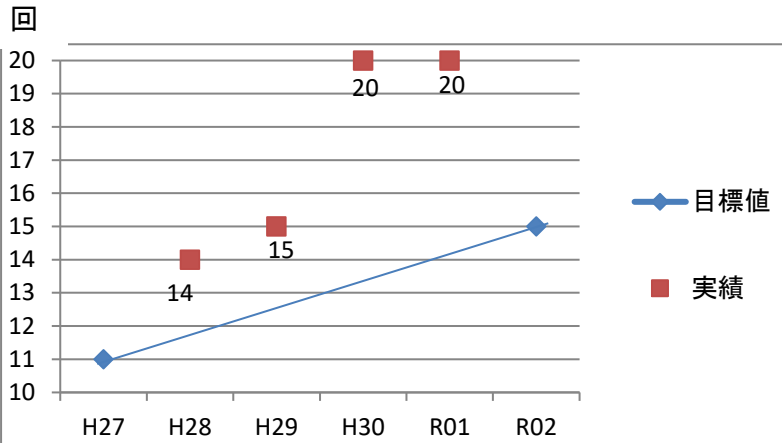
小学校5年生



中学校2年生



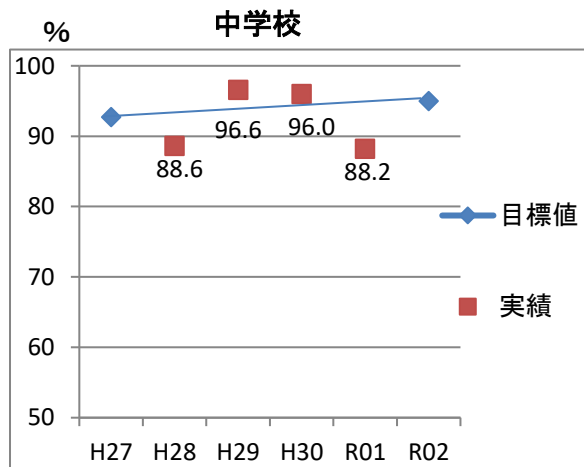
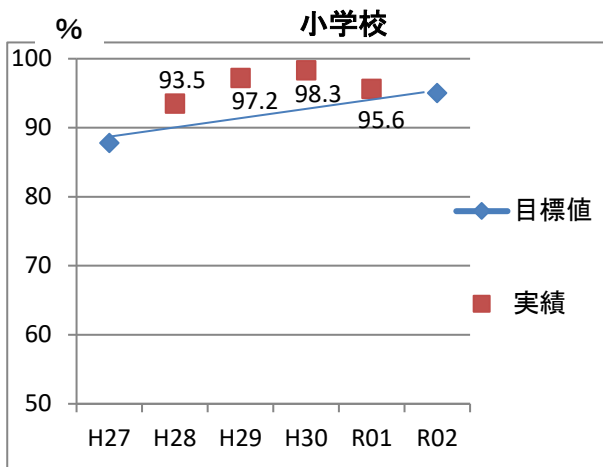
③「夢の教室」の実施回数



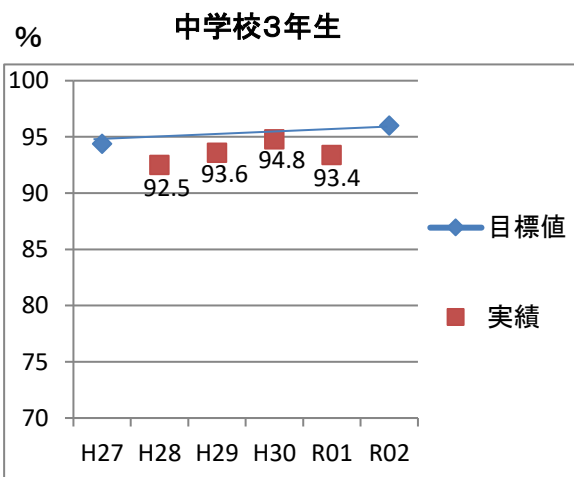
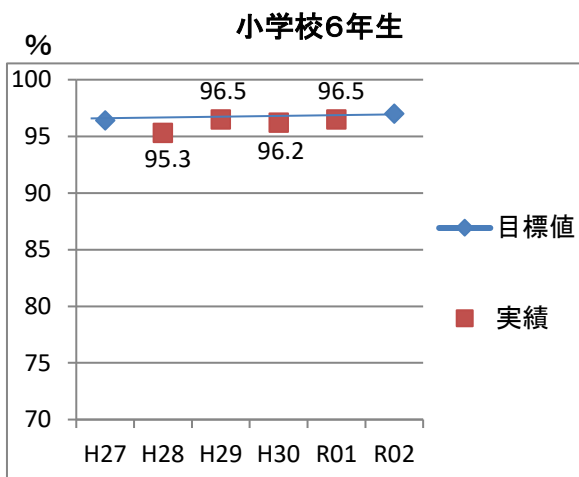
●支援策10

○測定指標

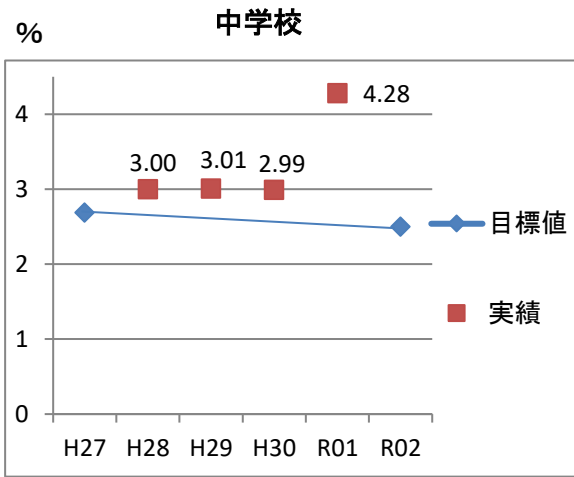
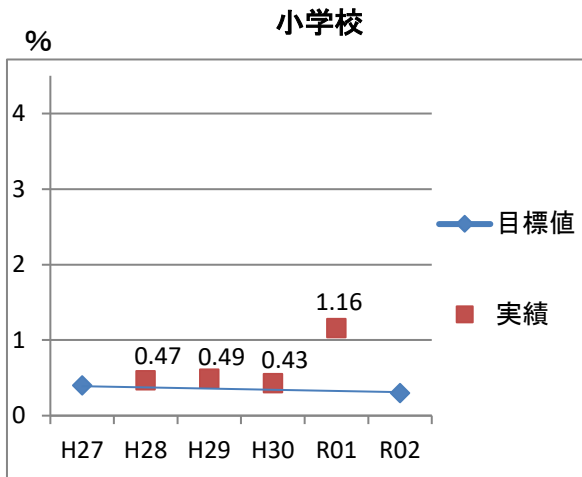
①いじめ認知件数に対する解消率



②「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」と回答する児童生徒の割合



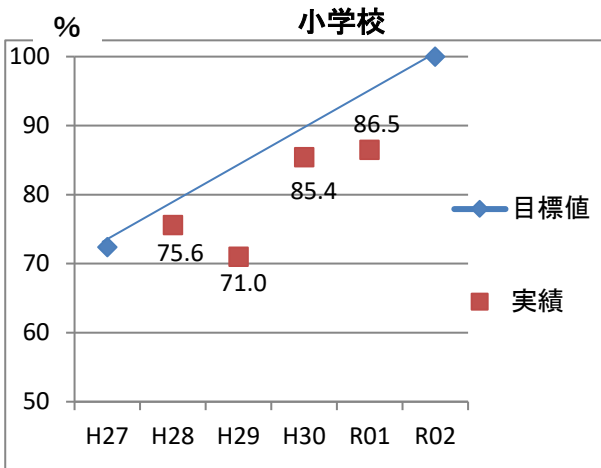
③小中学校における不登校児童生徒の在籍率



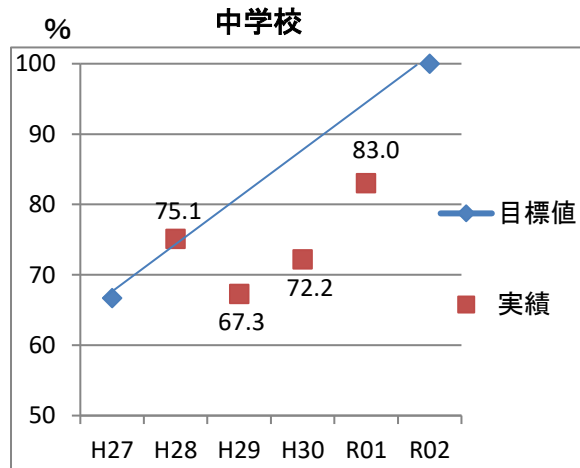
●支援策11

○測定指標

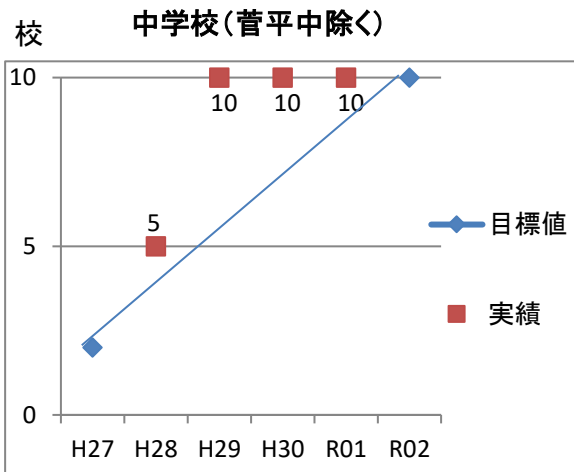
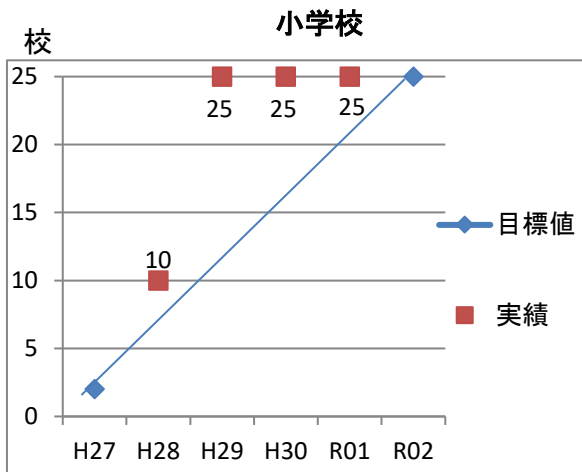
①保護者と学校が共同して作成した「個別の指導計画」作成率



②「個別の教育支援計画」作成率



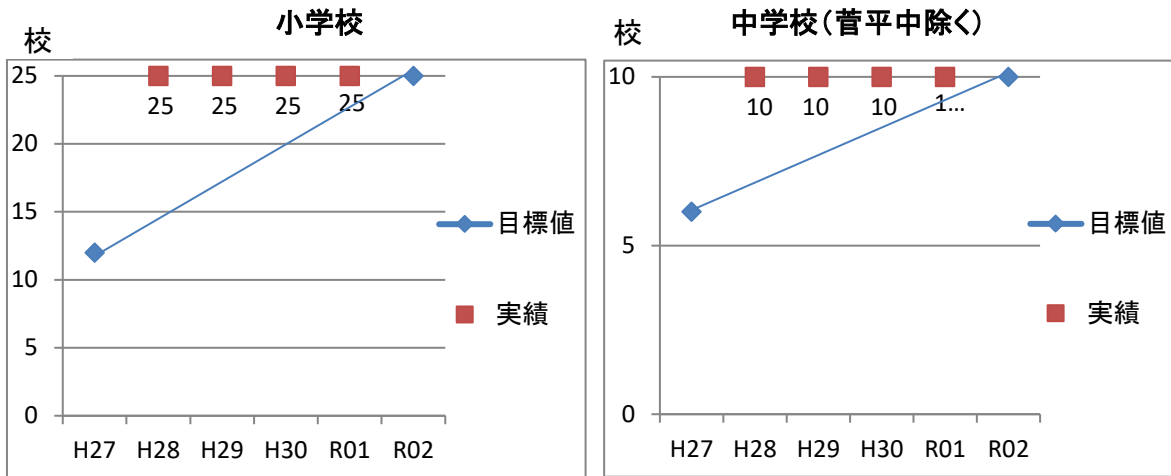
③特別支援学級へのタブレット型端末導入校数



●支援策12

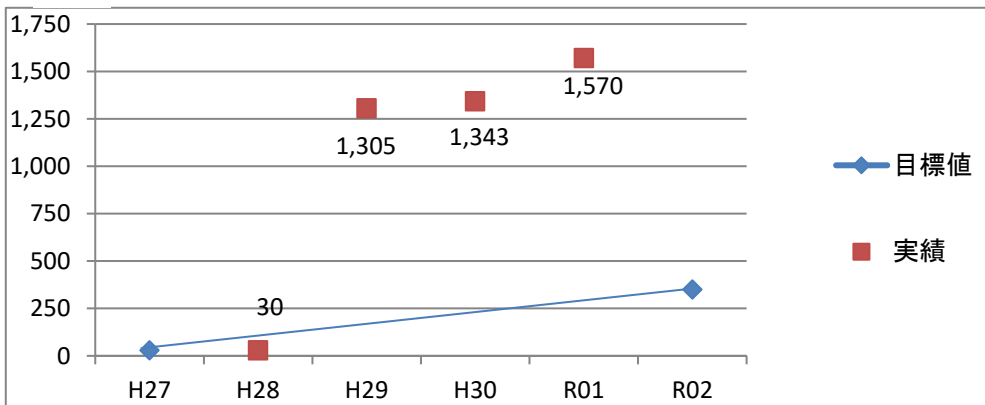
○測定指標

①信州型コミュニティスクール等の要件を満たす学校数



③学校ボランティアバンク登録者数

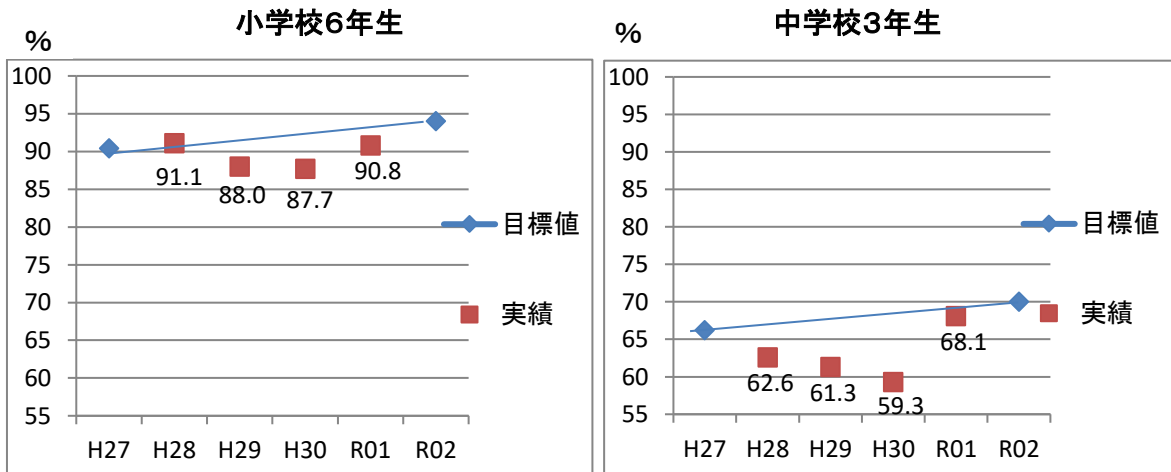
人



●支援策13

○測定指標

①「地域の行事に参加している」と回答する児童生徒の割合



②「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがある」と回答する児童生徒の割合

